

第3回酒田市総合計画審議会産業部会会議録

日 時 平成18年10月4日(水)午前10時00分～午前11時35分

会 場 酒田市役所 議会会議室

出席者

・ 部会長

齋藤 成徳

・ 副部会長

池田 正昭

・ 委員

齋藤 藤八 富樫 秀克 中瀬 義秋 星川 功 日下部仁司

武田 恵子 佐藤 吉雄

・ 欠席委員

佐藤 敏一

・ 事務局職員

松本 恭博 阿部 雅治 前田 茂実 佐々木雅彦 後藤 吉史

杉原 久 菊池 裕基 池田 恒弥 大谷 謙治

前田 茂男 後藤 重明

協議日程

部会長あいさつ

1. 開 会

2. 報 告

(1) 総合計画まちづくり意見交換会について

(2) 総合計画まちづくり50人会について

3. 協 議

(1) 酒田市の現状と課題(案)について

(2) 産業部会重点項目について

4 . その他

5 . 閉 会

開会 午前 10時00分

部会長あいさつ ・ 1 . 開 会

事務局（杉原 久） 本日はお忙しい中お集まりいただきまして誠にありがとうございます。
それでは部会長より開会をお願いします。

会長（齋藤成徳） 今日はお忙しいところ誠にありがとうございます。今回は、第3回目となります。皆さんから貴重なご意見をいただきて参りました。今回は総合計画まちづくり意見交換会、まちづくり50人会の意見がまとまったということですので、そういう状況の中での皆さんからのご意見、そして協議事項ということで、ここに載っておりますのでよろしくご審議をお願いしたいと思います。本日の欠席は、佐藤敏一委員一名が欠席ということで連絡が入っております。池田委員は遅れておりますが、時間ですので開会をいたします。

2 . 報 告

会長（齋藤成徳） それでは、早速次第にしたがって会議に入らせていただきます。はじめに報告事項の（1）総合計画まちづくり意見交換会及び（2）総合計画まちづくり50人会について一括して事務局より報告をお願いいたします。

事務局（阿部雅治） それでは、ご報告いたします。資料に沿って報告いたします。事前に意見概要シートを送付させていただきましたが、今日お配りの資料、総合計画策定状況についてという資料に沿って説明させていただきます。総合計画の各部会については8月1日から8月8日まで開催いたしました。これについては既に議事録等を送付しておりますので、内容等は省略させていただきます。まちづくり意見交換会ですが、7月13日から9月1日まで酒田市全域について、中学校単位で出かけていって市民の方々から意見をいただきました。延べで326名参加しております。内容を意見シートで説明しますが、まちづくり意見交換会とまちづくり50人会で若干意見の聞き方が違ってきますので、それについて最初説明させていただきます。後で集約がありますが、集約の内容も若干代わってきておりますの

で、これは意見の聞き方が違ったということで考えています。まちづくり意見交換会については各公民館とか会場に行って市民の方から中学校単位で集まっていただいて、意見を聞いたというものでございますので、皆さんにお配りの酒田市の現状と課題を全部読んでいただくというのは不可能でしたので、これについては概要を若干説明して、あとは普段自分が考えていること、感じていること、酒田市あるいは、地区に関することについて、既成概念に捕われないで普段の意見を聞いたということです。そういう聞き方をまちづくり委員会でしたということです。内容についてはあとで説明いたします。まちづくり50人会は一般公募と団体推薦を50人程度集めようということで行いました。全体で58人となりましたので、50人で切るということではなく全員から参加していただきました。年齢構成については高校生から70歳以上の方々までかなり広範囲に入っていますし、女性の方や旧3町からも参加いただいています。開催については8月9日から8月31日まで3回にわたって行い、58人ですので4グループに分かれてそれぞれ意見を伺ったところです。これについてはメンバーが確定しておりますので、事前に現況と課題を送って読んでいただいた上で意見をいただきました。審議会の皆さんと同じ認識の中で意見をいただいているということです。そういう形で意見を聞きましたので、トータル的に若干意見が違っているということは、後で説明をさせていただきます。次にどういう意見が出たかという類型ですが、市民の方々が重要と思っている項目、そういうものがここに出るものと思っておりましたが、先ほど申し上げましたとおり、まちづくり意見交換会とまちづくり50人会、意見の聞き方が違ったということで、ベスト10だけを見ても違いがあります。まちづくり意見交換会は普段考えていることで聞きましたので、こちらの方がベスト10に入るのかと思いますが、一概には言えないということで、普段とつきやすい市民の生活に関係するような身近な課題が多いのかなと思っています。順位は目安ということで考えておりますが、例えば両方ともベスト10に入っているのは、観光振興、都市整備、学校教育がベスト10に入っています。そういう形で見ているが産業振興の面から見ると雇用とか林業の振興についても、かなり高い順位の方に入っているということになっています。意見を見ないと重要度がわからないと思いますので、意見のシートをご覧いただきたいと思います。前回の部会のシートとまちづくり意見交換会の意見概要とまちづくり50人会の意見概要と3冊ありますがよろしいでしょうか。

資料説明。 - 省略 -

部会長（齋藤成徳） ありがとうございます。今事務局から説明ありましたけれども、まちづくりと50人会、これの説明がありました、内容については協議事項になりますので、

説明があったことについて、何か皆さんからご質問はないでしょうか。

委員（齋藤藤八） 全項目を網羅した意見の説明がありました。50人会、各地区に出かけての懇談会がありましたが、この中に地域協議会というものもあるはずですが、この辺の意見の集約はされているのか。たぶんダブっていると思うがこの辺はどうなっているのでしょうか。

事務局（阿部雅治） 地域協議会は各支所ごとありますが、それについては把握しています。地域協議会については、コミュニティとか地域の大きな課題を論議しています。新しい支所の予算とかを意見交換しています。それについても仕分けしていますが、現状と課題はそれを見て訂正するものではなく、その中で網羅されていると考えています。必要であれば、ホームページに意見が全部出ていますので、必要であれば印刷してお渡することも出来ます。全体的な意見が必要でしょうか。地域づくり懇談会もあり、地域づくり懇談会でもいろいろな意見が出ています。私どもは見ています。全体には網羅していると認識しています。

委員（齋藤藤八） 確かに支所に行けば資料があると言われますが、なかなか見ることができません。出来れば各協議会で話し合っているということが、集約したものでつかめれば嬉しい。

事務局（阿部雅治） 支所の方については、地域協議会の方々から書いていただいていますので、地域協議会で論議している意見もいただいているということをお願いをしたい。地域協議会の本当の議論については、酒田市のホームページでも掲載になっているのでご覧いただきたいと思います。

3. 協 議

部会長（齋藤成徳） 次に協議に入っていきたいと思います。皆さんからのご意見は協議のところでもいただきたいと思います。酒田市の現状と課題から協議に入りたいと思います。まちづくり意見交換会、まちづくり50人会から膨大な資料を隅から隅まで目を通せばよいのですが、なかなかそういうわけにはいかない場面もあると思います。この場で何か、（1）まちづくり意見交換会のご意見を聞いて修正しなければならないことなどがありましたら、追加や修正の意見をいただきたいと思います。このままの状況で良いということであれば、それで結構ですが、何か追加したい、あるいは修正したらどうかという事項はありませんでしょうか。

委員（齋藤籐八） 農業政策について、最近後継者不足ということで、認定者農業、集落営農など各地区で農民の方が自主的に集まって話し合いをしているようですが、認定農業者は4ha以上、組合や法人だと20ha以上を集約するという事は、土地の売買、受委託の関係が出てくると思います。これは農業委員会の管轄になると思いますが、これを推進するに当たって、ただ農家の人たちにお任せするのか。行政が何らかの形で関わりを持って指導するのか。その辺の状況をお聞きしたい。

農林水産課長（前田茂実） 平成19年度から大きな改革が始まります。その中で、担い手への支援の集中というものがあまして、認定農業者、集落営農と組織再編をします。そうした中で、農用地利用改善団体というものが新たに組織されます。これは農業者のみならず、地域の方々を含めて地域の農業をどうしようかと話し合いながら、農地・水・環境保全向上対策とか品目横断への対応などを話し合う機会が出来上がりますので、これから新しくそういった組織を作ろうということで今話し合っているところです。

部会長（齋藤成徳） そのほかございませんでしょうか。ご意見がないようであれば次に現状と課題についての取りまとめについて、事務局から説明をお願いいたします。

事務局（阿部雅治） 今回の現状と課題については、17日まで各部会で議論して取りまとめをしたいということで考えています。17日文教部会までの間にご意見をいただくということですので、取りまとめについては出来れば事務局にご一任できればと考えております。10月末ぐらいまでに修正、あるいは加筆を行い取りまとめますので、新しく修正したもののついて、10月末までに委員の皆さんへ送付させていただきますのでご了解いただきたいということです。これが終了しますと次の構想段階に入っていきたいと考えておりますのでよろしくをお願いいたします。

部会長（齋藤成徳） それでは、酒田市の現状と課題（案）については、本日いただいた意見を含めて、事務局より取りまとめいただくということでよろしいでしょうか。よろしければそのように進めさせていただきます。次に（2）の産業部会重点事項について、前回の部会で重点的に取り組むべき事項を集中的に部会として議論する方向で確認しております。本部会での重点項目について、事務局より説明をお願いいたします。

事務局（阿部雅治） 今日お配りの資料の5ページにあります総合計画各部会重点項目（案）前回の部会で確認しておりますが、よろしければ庁内の課長会議、部長会議、ワーキングで詰めまして、それでやっていきたいということでお話をしてきましたが、審議会の部会の意見をいただきながら、内容を少し詰めさせていただいたということです。項目と備考

というところがありますが、備考のところにもいろいろな個別の施策が書いてありますが、全体を網羅した形でテーマを設けて、産業部会では「活力に満ちた産業とにぎわいの創出」というようなものを設けて、その中で個別対策を検討していきたいと考えております。雇用対策についても、企業誘致とか、広域観光の振興、農林水産業の振興、中山間地域の振興など、すべてに関連する項目になります。そういうものを網羅的に考えながら1つの施策としてやっていきたいということで、雇用対策、企業誘致の推進、広域観光の振興、農林水産業の振興、中山間地域の振興というのが、産業部会の重点項目になるのではないかとということで、今回提案させていただいております。この中には広域観光にしてみれば、合併をして旧三町の施設のネットワークが必要だとか、農林水産の振興については集約化が必要だとか、中山間の振興については自然環境保全という観点とか観光との連携が必要だとか、雇用対策については全般的な施策が必要だということになりますので、こういうものを全般的にまとめていったほうが良いのではないかとこの提案です。内容についてご審議いただければと思います。

部会長（齋藤成徳） 只今事務局から産業部会の重点項目について説明がありました、このような形で集約してよしいか何かご意見があれば、追加することがあればご意見をいただきたいと思っております。

委員（齋藤籐八） 林業振興に関してですが、たとえば組合員が何千人いるかわからないのですが、ある理事から聞いたところによると、組合員の数がどんどん減少して困ったという話を耳にした。組合員に対する現況とか、これからの見通しについてお話いただければと思います。

委員（日下部仁司） 森林組合の組合員は約3,500名くらいです。正確な数字はわかりませんが、組合を脱退している人が最近多くなってきていると各支所から伺っています。特に多いのは八幡地区が一番多かった。今は平均に3件、4件くらい地区からの報告があります。なぜ、組合員離れがあるのかという課題として載っていますが、やはり木の価格が安い、後継者がいないということだと思います。組合としては組合員から林業離れ、脱退する人をどう止めたら良いかは難しい問題です。いかに喜んでいただけるかを常に考えていますが名案が出ないのが現実です。今追い風の流れがあって、木材の価格はそのままですが、原油高によって木の流れは良く、木材業者も売るのは最近苦労しなくなったと聞いています。組合員が手塩にかけてきたものですから、組合としては何としても組合員にお金が行くように、いかにしたら組合員に喜んでいただけるか。組合員が喜ばなければ商売にならないので、

その辺を頭に入れてがんばっているということです。

部会長（齋藤成徳） はい、ありがとうございました。その他、何かございませんでしょうか。なければ重点項目については、この項目で決定してもよろしいでしょうか。よろしければ、そのように決定させていただきます。次に只今の重点項目について協議をいたしますが、はじめに事務局から議論の進め方について説明をいただきます。

事務局（阿部雅治） 重点項目についての論議ですが、今回何も資料が出来ておりませんが、重点項目については決定いただきましたので、次回に向けてワーキングや部課長会を開いて、重点項目についての資料とか考え方を出していきたいと思います。内容については、次回からの審議になると思いますが、事前にお話したいことがあれば、ここで論議していただければと思います。

部会長（齋藤成徳） 只今事務局から進め方についてのお話がありましたが、特別に資料があるわけではありませんが、ぜひ皆さんから自由にご意見を頂きたいと思います。何かございませんでしょうか。50人会など細かいところまであがってきていますので、これを集約することは難しいことだと思いますし、方向付けのバランスが見えてきたようにも思います。そういうふうな面で特に我々の産業部会の重点項目については、的を絞りながらこれから検討していきたいと思います。何かございませんでしょうか。

委員（佐藤吉雄） 重点項目と言えば、多くの項目がある中で、産業部会という非常に大事な市民の生きる代との関係からすると決して明るい見通しに立っているものではないと言えます。この明るい見通しに立っていないものを立つような目標を捉えろということ自体、非常に難しい技術であろう。荘内日報がいつも書いているように酒田は鶴岡と比較しても県内最低だ。最低で最低で何をやっているのかわからないと悪態をついているわけですが、言われるほど落ち込んでいるのかどうかは別として、確かに昨今のテレビを見ている限り、大都市における求人状況を見ると好景気を地で行くような姿が映し出される。一方で酒田では有効求人倍率が1.0に達しない現状で、大学にやるのも良いけれども仕事がなく帰って来なくなるからやりたくないという親御さんもいっぱいいる。そんなことなどを考えると一体どうすればよいのか。民間が中心ですから、民間が中心となって仕事をするにしても、行政がどうやって支援するかは非常に難しいことだと思います。そこで1つ1つ積み上げて行くしかない。農業問題、行政政策の指針と現実に対応しようとする農業生産者の考え方の間にも相当大きなギャップがあります。こうでないとかダメだという国の施策をまともに聞くような状態にはなっていないと思います。こうあるべきだという一つの方向を示して、そこに誘

導しようとする国の施策ですから、必ずしも今現実の姿から見て理想に見えるはずはないと思います。いずれにしても大変なギャップがあります。いずれの作業でも言えます。林業にしてもしゃちほこばっても大繁栄をする林業にはなりえません。米づくり農業にしても米価が今から2万円にもなるような時代は来ません。そんなときにどうすればよいのかということだろう。まちづくりなどの意見にもあるようですが、部分的にはそうであるというものがいっぱいあります。部分、部分の点を線として繋いでいって、面にしていくそういう発展の方向を手がけるしかないのではないかと思います。それは総合計画審議会で議論するよりも議会が我々の何倍も議論しています。ですから我々がここで議論しようとするのはいったい何なのか。産業部門はもっとも難しい課題として預けられたものであろうと思います。一つひとつの点を大事にする。それを線に繋いで面に持っていく努力しかないと思います。その時大事なのは、リサイクル事業のような酒田市でしかできないようなものを大事にして、そこに行政も行財政改革で徹るだけでなく、金をかけてやらなければならないところを育てていくという投資的な着目も必要なのではないかと思います。何でも1割削減だと大概に1割減らしてもらうことは行政官としてはあるべき姿かもしれないが、産業の改革とかの面から言えば、これからやらなければならないところに大きなお金をかけたり、時間をかけたりすることが必要だと私は考えたい。例えば足腰の強い地域経済を形成して、そこに雇用を拡大していくという酒田市が追求し続けてきた産業構造、産業の目的が活力に満ちた産業とにぎわいを作り出していこうというのが、産業部会として最終的な総合テーマになるのだらうと思います。そういう意味で重点項目に賛成であるし、今後さらに砕いていくように50人委員会の意見、まちづくりで出てきた意見を全部ここで組み合わせて、総合的に判断しなければならないのは難しいのだと思います。まちづくりはそこに集まった人の雰囲気があって、地域の特性もあって、いろいろ一方的に地域の強い意見が出される可能性がいっぱいあります。たとえば、現状をすべて反映したのかということ80億円もかけた介護保険事業が項目の中に一つも出ていません。その面からいくとまちづくりの意見も50人会の意見も、取っ組みやすい、見えるものの意見がいっぱいあるのであって、見えないものは隠れたままになっていると言えるのではないのでしょうか。この部会が取り組めるとすればこれが最大の課題ではないかと考えます。

〔「はい」と発言する者あり〕

部会長（齋藤成徳） ありがとうございます。意見の集約を図りながら持っていきたいと思います。前回、武田委員から雇用の問題が出されました。まちづくりの意見も50人会の

意見にも載っていますが、その辺のご意見をお聞きしたいと思います。

○委員（武田恵子） 若者が残らなければ、帰ってこなければという意見が50人会やまちづくり委員会から意見が出ていて、私だけではないということに意を強くしました。正直そう思っている人が多くいるということは、行政としてはそこに力を入れて対策していただきたいと思います。企業誘致が必要だ。地場企業の力、仕事を起す企業もありますが、それも応援しなければいけません。そういう政策がここないと夢がないと思います。そこに向かっていこうとする勢いも見られないように思います。企業を誘致するには、新幹線という話もありました。交通基盤の整備もまちづくりの意見、50人会の意見の中にありました。そこも大事なことだと思います。個人的には自分がずっと酒田に暮らしていれば、東京に行くのに便利な方が良いとずっと思ってきました。仕事の関係で山形に行く機会が多くなり、同じ県であって、これだけ不便なのは何なのかということを思います。高速道路は出来ましたが繋がっていないわけで何回も止まらなければならない高速道路は何だろうと思います。ETCを付ければよいのかもしれませんが、47号線を行ってもあまり差がありません。投資した分使えるかということと、経済の活性化ということを考えた時、行政はどちらを優先するのか。酒田市を大事にするという意味でどちらを優先するのか考えていただきたいと思います。山形に行く機会が多い人は、山形と酒田のことを思うが、普通の市民は東京へ行くのに便利な方が良いと考えるのではないかと思います。企業も東京から誘致すればその方が便利なのではないかと思います。

部会長（齋藤成徳） 新幹線を利用する人の6割が観光の人だということです。意見の中にも森林という意見が多く出されていますので、その辺を日下部さんからお願いします。

○委員（日下部仁司） 私は常々思っていますが、いままで林業、農業もそうですが、下刈りするのに10年間補助があり、それが終わると除伐、5年間ごとに間伐して50年まで補助金をあげる。こういうことを指導され、教えられ、そのとおり我々はやってきました。その当時は木の価格も結構良かった。農業で言えばお米の値段も良かった。価格が下がってお米も食べない。木の価格も落ち込む。このままでやって良いのかということになると、いかに補助金に頼らないでいくかということが一つです。口で言うのは簡単ですがたいへん難しい。林業の場合は50年生で手入れがされている山であれば、補助も利用しながらやれば、大きい組織には1千万近くのお金も行っていきます。そういうことで組合員から喜んでいただき山に入ってもらいたいと思います。また、行政へのお願いですが合併する前は各市町村が林業管理応用林を作っていました。市も合併してかなりの面積があります。この山を目標50

年で伐木するのか100年で伐木するのか、そういうものがまだ見えてきません。それをぜひ作っていただきたいと思います。どのような管理をしていくか。そういうものを市民の関心のある人、所有者に見せる管理マニュアルがあっても良いのではないかと考えています。いろいろな方法もあると思いますが、現状を見ると全部皆伐すると再造林するのは大変だから抜切りをやっていく。そしたら抜切りをどのようにやっていくのか。ということも大事なことだと思います。

部会長（齋藤成徳） 農業ではいろいろな経営を行っている袖浦農協の星川さん、この中にはかなり意見が入っているようですがご意見をいただければと思います。

○委員（星川 功） 先ほど認定農業者は4ha以上、組合や法人だと20ha以上この要件を満たしての向こう5か年は国の政策があります。戦後45、6年ごろ転作がはじまってから、曲がり角の農政と言われてきました。これをやったとしても1万円からの値段が、外国から米を輸入したら、集落営農でのリーダーや担い手となった人以外は、農業分野からはこぼれます。収益が下がるので米だけの収入だけで飯を食べるのは不可能となります。認定農業者が4町分以上、20町分以上の集落営農をやっても、5年間は政策に合わせた取り組みをして、いろいろなものをもらうという制度は続くかもしれません。それ以降、それで飯が食えるというのは難しいのではないかと考えています。企業とか、他に職業を求める傾向が5年以降ははじまると思います。そこでどうするかを10年のスパンで考える必要があります。畑も同じです。中国野菜がよそから入ってきてコストが下がらない、その中で後継者は高齢化し、馬力がなくなった中で、畑作振興もこれと同じような状況になっています。この部分を地域で消費する直売所のような流通の改善を図り、米も含めて地場消費するような仕組みを作り、コスト削減や新鮮でおいしい食べ物が供給できるような関わりが何とか生み出せないかと思っています。農業分野での労働力が5年後には、年のいった労働力でいっぱいになります。そうなったときに起業、企業誘致の推進で、ここは工業区域だというように分けることが意味をなしているのでしょうか。大宮団地のように当初計画したのから代っていきというのが今は良いのだと思います。前回も言ったと思いますが、その地域、地域周辺の土地の見解があって、自分たちが中小単体の会社を作ってやりたいときに縛りがありすぎるのではないのでしょうか。大企業を誘致するための工業団地だけでない見直しを経済道理だけでなく、土地利用というものからの企業誘致もあってほしいと思います。

部会長（齋藤成徳） 同じ農業関係でも集落農業ということで農業関係も変革期に入っています。池田委員これからどう展開していくのか我々も心配しながら、果たしてそのようなや

り方が成功していくのか。それにはまらない人はどうあるべきなのか。その辺、心配な点がありますのでご意見をいただきたいと思います。

○委員（池田正昭） 今年の7月に農政省の東北農政局長が代ったということで、新しい農政局長が見えた。推進策の中で避けて通れない農地・水・環境があります。関係する土地改良区が5つ、農協は、袖浦とみどりの2農協、そして酒田市の3者の関係がどうなるかを検討しています。幸い酒田市の場合は行政が責任を持って取りまとめをしていこうとなっています。新酒田市は森林面積が60%になるということですから、山林、水を守ることが使命となります。農業振興をどうするか、王道を行くしかないから、時間もかかるし、国の力も必要ですが、日本の食料を生産するということがあるわけですので、行政の方からもいろいろな形での指導や指南をいただきたいと思います。酒田市は2つの農協があるわけですが、袖浦は複合農業ですが、みどり農協は厳しいという状況にあります。学校給食の関係で地産地消がどうなっているか教えていただきたいと思います。

部会長（齋藤成徳） 時間はかかるとは思いますが、頑張ってくださいと思います。

○委員（武田恵子） 学校給食についてですが、月1回地産地消の日があります。完全に酒田飽海地域の食材で食べています。普段の米は酒田の米で、魚、肉は学校給食会という組織があって安いものを買って学校で調理して食べます。月一回は確実に全品地産地消の日があります。これがもっと増えて行けば委員の意見にあるように、もっともっと有効活用されると思います。値段のこともあるのでそのようになっていると思います。

○委員（星川 功） 関連して学校給食、米の販売業者が酒田市と一緒に安いで飯を食べてもらっています。そういう政策を補助金で補って酒田のおいしい米を食べてもらっています。そういうことを何十年もやってきました。それで子供がおいしい米を食べたから、家に帰ってもお母さんこの米を買ってくださいという普及があったのかは疑問です。はえぬき、ひとめぼれよりも、スーパーやホームセンターで、米が安ければそこに買いに行く。野菜もそうです。三川の公設市場は計画経済を求めて、農産物をそうしてくれといってもならないかもしれない。どうにかして消費をあげるようなことができればと思いますが、中学校の学校給食などでやろうとしてもコストを下げるため、農協は提供業者としては相談にもならない。そういう実態が農業分野の問題で、特に米についてやったとしても、普及策になっているかは疑問だから見直す時期にあるのではないかとということも消費者の皆さんからも理解してもらいが必要だと思います。農業分野のことだけでなく、中町の問題もすべて同じだと思います。実態の問題から触れていかないとダメだと思います。

部会長（齋藤成徳） 商工会の立場から中瀬さんお願いします。

○委員（中瀬義秋） 重点項目について、私はこれで良いと思います。いろいろな項目の中で何を折り込むかが、これからの大きな課題だと思います。商工会の内情ですが、平田町商工会は180人くらい、そのほとんどが小規模事業者、従業員が20人以下です。小規模事業者が多い。それと合わせて個人事業主、個人で営業されている方が非常に多い。その中で地域の商工業をどうやって振興していくかという課せられた大きな問題です。一つ問題なのは、商店が毎年減少しています。特に中山間地を中心に事業主の高齢化によって、廃業せざるを得ないというところが目立ってきています。人口の問題とか地域の産業問題とかいろいろな問題が関わっているのであろう。中山間地域の商店がほとんどなくなっています。地域に住んでいる人たちと、どう解消していくかを議論しています。福祉の方と連携していくのが。普段1人住まいの人をどうやってフォローしていくのが地域の課題です。そんなところで非常に厳しい状況にあります。何と言っても個人事業主、個人会社が立たないことにはどうしようもない。小規模事業者に対するこれからの事業振興をどうするかということが大きな問題でありますので、具体的に皆さんに相談していきたいと思っています。合併については八幡の商工会長さんをお願いしますが、商工業だけでなく農業、林業の話もあったが、そういう人々と一体的に関わっていかないと商業、工業だけを考えてもダメなので、その地域の中で皆がどう関わっていけるのかが、これからの大きな課題ではないかと思います。そのための行政からの援助をいただきながら、我々も方向性を示していきたいと考えています。

部会長（齋藤成徳） 富樫さんお願いします。

○委員（富樫秀克） 経営者の高齢化に伴う後継者不足です。子供と親が同居しているが、親の商売とは異なる勤め人のため自分の代でやめてしまう。旧3町だけでなく旧酒田市の小売店でもあると思います。市の総合計画から見れば後ろ向きの対策になるかもしれないが、こういった場で議論を交わし、さまざまな形で行政からの手立てというも、必要を求めることも大切ではないかと思います。この総合計画重点項目の案は、備考欄を見たときに農家もそうですが、後継者の手立てを何らかの形で議論の場に載せていただければと感じています。

部会長（齋藤成徳） 齋藤さんお願いします。

委員（齋藤藤八） 皆さんの言うとおりなのですが、既存業者、商工業者が行き立たなくなったというのは人口の減少にあります。大型店の郊外進出、農・林家が調子悪いと地元の商店もまったく成り立たない。まったく悪循環、悪いことばかり加わっています。重点事項の中にある広域観光振興に期待しています。PRにしても酒田は酒田、松山は松山、各町ばら

ばらの観光をPRしてきました。やはり大自然の鳥海山がひかえており、正式に言うと秋田県と言われているようですが、あれを目玉にした旧1市3町の観光ルートを進めてもらいたいと思います。旧八幡町は年間30万人来ていますが、受け入れ態勢が半端なのか、人は来るがお金を置いていかないというのが現実で、泊まりは湯野浜かどこかで泊まってしまう。酒田市も同じだろうと思いますが、今度観光業者とタイアップしながら、酒田を主体とした観光はこういうルートがありますというようなことを全体で力を入れてもらいたい。八幡の鳥海八幡観光があるわけですが、それなりに企業努力でパンフレットを配り、宣伝はしていますが予算的に限界があります。酒田全体で売り出すような施策は、行政で力を貸していただかないとうまくいかないと思います。ここで目を付けた広域観光の振興は、たいへん将来性があると思うし充分力を入れてやってもらいたいと思います。我々もやりますので何とか力を貸していただきたい。観光物産協会もいずれ合併するということになっておりますので、強行に押し進めてもらいたいと思います。

部会長（齋藤成徳） 50人会の意見も観光が多く出されています。酒田の観光物産協会との連携も図りながら進めていきたい。最後になるが酒田商工会議所と関連ある部分が出されておりますので、議長と言う立場を離れて、商工会議所会頭という立場でご意見を申し上げます。今、商工会議所で緊急に取り組んでいることは雇用の確保です。何としたら雇用の問題が少しでも解決できるのか。特に最重点を置きなさいと指示しています。具体的な方法は何かと、これは新幹線の問題なり、いろいろな問題があるが、時間のかかる問題、我々は時間のかかる問題も取り掛かる必要がありますが、今何をしなければならないのかということ、今何が出来るのかを重点に考えようとしています。やはり企業誘致の問題がありますが、今具体的に動き出したのが市の方とも連絡を取りながらやっていますが、市の方からは民間で動いてくれ、民間である程度形作りをしたら、自分の方でも一緒に進めるということです。一つはこの地域から東京とかに出て活躍している人たちがいっぱいいます。各高等学校の地区同窓会、後援会の組織がかなり活発に行われています。そういう人たちは、自分が育った地域に何か一つ役に立つことをしたいということを思っています。具体的にどうすればよいかということをお問い合わせしながら、我々も取り組んでいる最中です。会議所の中にも中小企業委員会を作って、それらの人たちと連携のとられる部門を作り、各高等学校の東京との組織の人たちと接触中ということで進めています。もう一つはやはり、地域企業の育成は当然であり、けどもこれも時間がかかります。その中ですぐやらなければならないことは、目の前に団塊の世代が第一線から離れる人がいっぱい出てくるということです。農業

関係もそのとおりであります。若い人たちもこの地域に残っていただきたい。そういう人たちから何とか独立してほしい。こういうことをもって、こういうことをやりたいが、何か相談する場所がないか。今、会議所では相談場所として自立企業の窓口を開いて、若い人、年配者が自分で、こういうようなことをやりたいというものについて、相談に乗りましょうというPRを行いながらやっていくつもりです。そういう面で何か行動を起さないと解決しない。商工会議所の会員は2千5百社、酒田市だけですが、毎月、脱退会員が入会会員よりも多い。退会する理由を見ると後継者がいないという自主廃業が圧倒的に多い。倒産はほとんどありません。こういったものを防ぐために、我々は一人でも二人でも三人でも自主的に何かやりたいという人に対して、我々民間としても具体的なところまでいっていませんが、その方向で動いていくということを報告します。市役所でも当然やっておりますので、さらに具体化した場合は行政と相談していきます。企業誘致の方は非常に明るい材料もありますので、決して暗いものばかりではありません。明るい材料を進めて、我々もバックアップしながら進めていきたいと思えます。その他ありませんか。無いようでしたら、今ご意見をいただいたことを含めて市の方からまとめていただきます。今出た意見をこれから個別に詰めていきたいと思えますので、そのようにご理解をいただきたいと思えます。

4 . その他

部会長（齋藤成徳） その他として委員の皆さんから何かないでしょうか。なければ事務局から何かございますか。

事務局（阿部雅治） 今後のスケジュールについて申し上げます。各部会が10月17日まで開催がされます。現況と課題について一応意見をまとめます。次の段階として施策の大綱、基本構想の案の作成に入っていきたいと思えます。これは12月末から1月のはじめ位まで、案を作るので次回の審議会は、その後、1月末か2月のはじめになると思えますが、それにご提案をさせていただくということで考えております。また、その時期になりましたら、ご案内させていただきます。

部会長（齋藤成徳） 皆さんの集約された意見が出されましたので、時間が余りましたが、これで第三回の審議会を終了いたします。お忙しいところありがとうございました。

閉会 午前 11時35分